

科学研究費助成事業（科学研究費補助金）研究成果報告書

平成25年 6月21日現在

機関番号：37101
 研究種目：基盤研究(C)
 研究期間：2010～2012
 課題番号：22520282
 研究課題名（和文）近現代のスコットランド詩におけるナショナル・アイデンティティとバラッド詩の関わり
 研究課題名（英文）National Identity and the Scottish Literary Ballads of the Nineteenth and Early Twentieth Centuries
 研究代表者 中島 久代 (NAKASHIMA HISAYO)
 九州共立大学・経済学部・教授
 研究者番号：90227778

研究成果の概要（和文）：18世紀初頭から19世紀にいたるバラッド詩の系譜の概要をまとめたうえで、

- (1) デイヴィッドソンのアイデンティティ意識の変遷を、故郷グリーンノックの描写、ロンドンでの経験、代表作品から論じた。
- (2) 伝承バラッド「うたびとトマス」を模倣したスコット、デイヴィッドソン、ミュアのバラッド詩が、ナショナル・アイデンティティに対する擁護、ゴシック的不安、懐疑を映し、アイデンティティ意識が変化していることを論じた。

研究成果の概要（英文）：On the basis of clarifying the outline of the genealogy of English and Scottish literary balladry from the early eighteenth century to the nineteenth century,

- (1) The transition of John Davidson's sense of national identity as a bicultural writer was traced through the analytical discussions on the poems concerning his hometown Greenock, his harsh experience in London, and two masterpieces "Thirty Bob a Week" and "A Ballad of a Runnable Stag".
- (2) The conceptual change of national identity of the three Scottish poets, Walter Scott, John Davidson, and Edwin Muir, from its advocacy to the Gothic anxiety and then the skepticism toward identity itself was clarified by discussing each poet's imitation of the traditional ballad "Thomas Rhymer".

交付決定額

(金額単位：円)

	直接経費	間接経費	合計
2010年度	500,000	150,000	650,000
2011年度	400,000	120,000	520,000
2012年度	200,000	60,000	260,000
年度			
年度			
総計	1,100,000	330,000	1,430,000

研究分野：人文学

科研費の分科・細目：文学、英米・英語圏文学

キーワード：スコットランド詩、バラッド詩、伝承バラッド、ナショナル・アイデンティティ、Thomas Rhymer、Walter Scott、John Davidson、Edwin Muir

1. 研究開始当初の背景

英語圏のバラッド詩の作品数は 1,000 篇近くにはのぼるが、1765 年の Thomas Percy 編纂 *Reliques of Ancient English Poetry* 以降、研究者の関心は、主として伝承バラッドの蒐集に注がれ、国外では約 73 点、国内では 4 点の編纂集が存在する。他方、約 1,000 篇という規模を抱えるバラッド詩に関しては、作品編纂、作品研究ともに、国内外を通じて、かなり手薄なままで現在に至っている。国外のバラッド詩に特化された編纂集は、A. H. Ehrenpreis 編 *The Literary Ballad* (1966) のみ、バラッド詩研究は、A. B. Friedman 著 *The Ballad Revival: Studies in the Influence of Popular on Sophisticated Poetry* (1961) を代表として、数点にすぎない。国内における編纂集は、中島、山中、他共編著『英国バラッド詩 60 撰』(2002) のみ、研究書は、M. Yamanaka 著 *The Twilight of the British Literary Ballad in the Eighteenth Century* (2001) にとどまっている。

このような国内外のバラッド詩研究の現状において、バラッド詩の研究は、英詩研究の中の手つかずの分野として研究に値する。

2. 研究の目的

(1) 研究の全体構想

バラッド詩の伝承バラッドからの模倣の諸相と、模倣から逸脱へと至ったバラッド詩の独自性の解明によって、バラッド詩の系譜を確立すること。

(2) 全体構想の中での本研究の目的

本研究課題の遂行によって、20 世紀初頭のスコットランド詩の存在意義をバラッドというジャンルから照射し、スコットランド・バラッド詩の英詩全体の中での特色を解明すること。同時に、バラッド詩の系譜中のスコットランド文学における 20 世紀の系譜の特色を検証すること。

3. 研究の方法

(1) John Davidson のバラッド詩について、詩人のバラッド詩とナショナル・アイデンティティとの関わりを中心に、同時代のスコットランド詩人たちのバラッド詩の模倣と逸脱の諸相について検証する。

(2) Edwin Muir について、詩人のバラッド詩とナショナル・アイデンティティとの関わりを中心に、伝承バラッドからの模倣と逸脱の諸相を解明する。

(3) Hugh MacDiarmid については、デイヴィッドソンへの影響、ミュアとの対立の要因と対立のポイント、ナショナル・アイデンティティ確立へのこだわり等について、デイヴィッドソンとミュアの検証および解明の中で適宜言及し、まとめ直しを行う。

4. 研究成果

(1) 研究の主な成果

① 18 世紀初頭から 19 世紀にいたるバラッド詩の系譜の概要のまとめ

本課題遂行の前提となる「バラッド詩の系譜」について、“The Genealogy of English and Scottish Literary Balladry from the Early Eighteenth Century to the Nineteenth Century”と題する論文において、Friedman, Laws, Yamanaka の 3 名の研究が 20 世紀にバラッド詩研究を推進したこと、18 世紀初頭の女性詩人 Elizabeth Wardlaw による系譜のさきがけとしての“Hardyknute”、ロマン派詩人 Wordsworth と Keats の感傷的傾向、ヴィクトリア朝の Tennyson, Rossetti のリフレインの技巧と Trail のパロディ・バラッドなどについて、19 世紀までのバラッド詩の系譜の概要をまとめた。

② デイヴィッドソンのアイデンティティ意識の変遷について

論文「ジョン・デイヴィッドソン 藁が燃えるような暴力的なエネルギーの生涯 — 孤高の詩人の誕生から最期まで —」において、詩人としての出発点から最期までを、デイヴィッドソンのバラッド詩を手がかりに、詩人のアイデンティティのあり方を辿った。19 世紀の繁栄と貧困の二律背反を抱えたスコットランドの港町 Greenock が与えた影響、スコットランドを捨ててロンドンに移住し、入会したライマーズ・クラブでの W. B. Yeats との確執とイェイツに与えた影響、都会に暮らす貧しく誇り高い労働者のモノローグ “Thirty Bob a Week”、精神を病んだ果てのイングランドの港町 Penzance での入水自殺、尊厳ある死を描いた “A Ballad of a Runnable Stag” などから、アイデンティティ意識の変遷を論じた。

③ 伝承バラッド「うたびとトマス」を模倣したバラッド詩に投影されたアイデンティティ意識の変質について

スコットランドは独自のアイデンティティを保持しており、1707 年のスコットランドとイングランドの議会合同以降のスコットランドの歴史には、アイデンティティ探求の問題がつきまとっている。スコットランドの文学においても、ナショナル・アイデンティティの再構築は中心となるテーマである。

アイデンティティは共同体の構成員が抱くイメージであるという Anderson と Hall の定義を足がかりとして、そのイメージを Thomas Learmont of Erceldoune という 13 世紀に実在した、スコットランドのシンボルと見なされてきた人物にとり、伝承バラッド

“Thomas Rhymer”を模倣した Walter Scott、デイヴィッドソン、ミュアのバラッド詩のトマス像とナショナル・アイデンティティとの関わりを考察した。

中世文学ではトマスはひとつの場所のアイデンティティに固定されない存在であったことが先行研究により論証されている。19世紀のスコットのバラッド詩は、場所の特定と王権擁護のストーリーによって詩人自身のナショナル・アイデンティティ擁護の姿勢を明確に示した。しかし19世紀末、スコットのトマスを模倣したデイヴィッドソンは、ゴシック的な描写によって詩人自身のアイデンティティの揺れとスコティッシュ・アイデンティティに対する不安をトマス像に投影した。さらに、20世紀初頭、ロマン派的なトマス像を模倣したミュアは、呪縛されたトマスとスコットランド批判を語って、スコティッシュ・アイデンティティへの懐疑を示した。

したがって、「うたびとトマス」はナショナル・アイデンティティの擁護から懐疑への変質を象徴する存在となっており、トマス像にはアイデンティティ形成の多義性が反映されていること、ひいては一連のトマスのバラッド詩はアイデンティティの再構築の多重性を映していることを、学会発表「“Thomas Rhymer”の模倣詩とアイデンティティ意識をめぐって」、および、論文“National Identity for Scott and Davidson as Imitators of “Thomas Rhymer””上で指摘した。

④ その他

論文「ゴシシズムと模倣 — *The Monk*とバラッド詩 —」において、バラッド詩の成立要因である「模倣」という視点から、ゴシック小説 *The Monk* に挿入されたバラッド詩の役割を考察した。バラッド詩は挿入された場面以降に起る事件を予告し、小説のゴシシズムを盛り上げる役割を負っているばかりではない。挿入された詩に対する高い評価の存在、発表当時の挿入詩の宣伝のための広告、ドイツ文学の pre-texts からのプロットとモチーフの援用、挿入詩のパロディを作者 M. G. Lewis 自ら創作していることなどの事実から、ルイスはこの小説で模倣としての創作という芸術行為をゴシシズムをテーマに展開していることを論じ、小説中のバラッド詩は、ルイスの模倣の技が小説のゴシシズムを支えていることを象徴的に示す役割を担っていると結論付けた。

(2) 得られた成果の国内外における位置づけとインパクト

研究成果①から④は、学会発表、関連学会の研究ノート、学術論文（査読あり）、紀要論文（査読なし）などで公表を行った。

成果①については、本研究課題遂行の前提となる「バラッド詩の系譜」の存在をより明確にするために、先行研究、および、これまでの研究成果で公表してきた知見を時系列的にまとめ、所属研究機関の紀要に発表した。国内では、山中著 *The Twilight of the British Literary Ballad in the Eighteenth Century* がロマン派時代までの系譜を示しており、本成果はその後の展開としての意義があった。

成果②については、スコットランド詩人のアイデンティティを巡る葛藤を、その生涯とバラッド詩との関わりを軸にして、伝記的にまとめた。本論文は『スコットランド その流れと本質』という一般向け図書の中の一章であり、スコットランド文学およびバラッド詩というジャンルの国内での浸透に貢献できた。

成果③については、スコットランドを専門に研究する団体、カレドニア学会で研究発表を行った。トマス像がスコットランド詩人たちのバラッド詩によって現代まで継承されているという事実や、バラッド詩の系譜においては、イメージやモチーフの自由な相互利用が行われているという発表内容について質問等が寄せられ、バラッド詩を系譜として読み解く英詩およびスコットランド詩研究のインパクトを示すことができた。発表原稿は、ミュアに関する部分を割愛して論文にまとめ、学会誌への掲載を許可された。

成果④は、2010年3月に日本バラッド協会のシンポジウムで行った発表に基づいており、バラッドというジャンルの普遍性、小説などの他分野との密接な関係性、広く知られている小説とバラッドとの関係を取り上げる視点の斬新さをアピールできた。研究ノートとして日本バラッド協会のホームページ上に発表概要を公開し、あわせて、バラッド詩の作品データベース「英国バラッド詩アーカイブ」中の M. G. ルイスの関連論文リンク先となった。最終的には所属研究機関の紀要としてまとめた。

(3) 今後の展望

2010年度当初の研究計画に盛り込まれていたが、成果としてうまくまとまらず、未解決点として残ったのは以下である。

20世紀の詩人ミュアはバラッドに深く傾倒し、現代詩への警鐘としてバラッド的精神を評価したが、ナショナル・アイデンティティを批判する創作姿勢は他のバラッド詩人たちと一線を画している。ミュアのバラッド的視点とバラッド詩はナショナル・アイデンティティの多義性とどのように関わっているのか。

この論点を解決するために、ミュアに多大な影響を受け、バラッドからの特異な模倣作品を持つ、ミュアと同郷オークニー出身の George Mackay Brown のバラッド論と作品

分析を新たな切り口として、ナショナル・アイデンティティを超えたミュアとブラウンのバラッド的視点について、継続して研究を行うこととした。平成25年度-27年度科学研究費補助金基盤研究(C)課題名「アイデンティティ探求を超えてモダニズムへ — ミュアとブラウンのバラッド的視点 —」が採択され、ミュアのバラッド詩について研究を開始した。

下の表は、本課題について残された未解決点と今後の展開の相関を表にしたものである。

本課題の未解決点	今後の展開
Scott や Davidson と Muir のアイデンティティ意識の相違	Muir の伝承バラッド評価の諸相 Muir のアイデンティティ観とモダニズム
アイデンティティ探求と異なるバラッド詩の存在	Brown のバラッド模倣作品の諸相 Brown が Muir から引き継いだもの
バラッド的視点によるアイデンティティ探求の超越	Muir と Brown のバラッド的表現とモダニズム

5. 主な発表論文等

(研究代表者、研究分担者及び連携研究者には下線)

[雑誌論文] (計 3 件)

- ① Hisayo Nakashima, “National Identity for Scott and Davidson as Imitators of “Thomas Rhymer””, *CALEDONIA*(日本カレドニア学会), 査読有り, No. 40, 2012, 35-50.
- ② Hisayo Nakashima, “The Genealogy of English and Scottish Literary Balladry from the Early Eighteenth Century to the Nineteenth Century”, 『九州共立大学研究紀要』, 査読無し, 第 2 巻第 2 号, 2012, 1-13.
- ③ 中島 久代, 「ゴシシズムと模倣 — *The Monk* とバラッド詩 —」, 『九州共立大学研究紀要』, 査読無し, 第 1 巻第 1 号, 2011, 43-49.

[学会発表] (計 1 件)

- ① 中島 久代, 「“Thomas Rhymer”の模倣詩とアイデンティティ意識をめぐって」, 日本カレドニア学会 2011 年度大会, 2011 年 9 月 17 日, 神戸海星女子学院大学.

[図書] (共著) (計 1 件)

- ① 中島 久代, 「ジョン・デイヴィッドソン 藁が燃えるような暴力的なエネルギーの生涯 — 孤高の詩人の誕生から最期まで

—」, 開文社, 『スコットランド文学 その流れと本質』(木村正俊編, 共著), 2011, 343-359.

[産業財産権]

○出願状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

出願年月日:

国内外の別:

○取得状況 (計 0 件)

名称:

発明者:

権利者:

種類:

番号:

取得年月日:

国内外の別:

[その他]

ホームページ等

なし

[研究エッセイ]

- ① 中島 久代, 「英国バラッド詩アーカイブ (<http://literaryballadarchive.com>)」, 日本カレドニア学会 *News Letter*, No. 46, 2012, 2,200 字.

[研究ノート]

- ② 中島 久代, 「ゴシシズムと模倣 — *The Monk* とバラッド詩 —」, 日本バラッド協会 HP, 2010, 4359 字.

[バラッド詩データベース](共同データ作成)

- ③ 中島 久代・山中光義監修, 「英国バラッド詩アーカイブ」, (<http://literaryballadarchive.com>), 2011 年 10 月データ部分完成.

6. 研究組織

(1) 研究代表者 (単独)

中島 久代 (NAKASHIMA HISAYO)

九州共立大学・経済学部・教授

研究者番号: 90227778

(2) 研究分担者 なし

()

研究者番号:

(3) 連携研究者 なし

()

研究者番号: